



社会的判断とショートカット

政治行動論-9

- ・ Nisbett and Ross 1980. *Human Inference: Strategies and Shortcomings of Social Judgment*. Prentice Hall.
- ・ 池田謙一1997.『転変する政治のリアリティ』木鐸社.



2つのヒューリスティクス

- ・ The Availability Heuristic
 - 「利用可能性」ヒューリスティクス
 - 頻度に関する推論に活用されるショートカット
- ・ The Representativeness Heuristic
 - 「代表制」ヒューリスティクス
 - 事態・状況の分類の際に活用されるショートカット
 - 事態・状況がどの程度「現実的」であるかについての判断

Nisbett & Ross 1980, 19



なぜ Availabilityバイアスが—その理由

- ・ サンプルング (sampling) の影響
 - 推定の際の具体例の偏りの影響
 - 失業者は、別の失業者に遭遇する確率が高い
 - 長野県出身者は、長野県出身の有名人のことを話題にする確率が高い
- ・ 記憶 (storage) の問題
 - そもそも、サンプルングの偏りから、記憶にある対象者の分布にも偏りがある
 - つまり、記憶として蓄積されている、それら人の数が多い



Representativenessバイアス 例1

■ 次の瞬間に日本で生まれる6人子供の性の順番はどれになるか (B: boy, G: girl)

1. B, B, B, B, B, B
2. G, G, G, B, B, B
3. G, B, B, G, G, B

- 確率的に、どれも同じ。
- 次の子どもの性と、その次の子どもの性は「独立」なので、先が後を規定することはない
- ところが、1や2は、「現実」をrepresent (「代表」) しない、
- 「現実」からかけ離れている
- だから、3が正しいと考えてしまう



「鮮明さ (vividness)」バイアス

- ・ 認知プロセスにおける、もう一つのバイアス
- ・ 統計的 (科学的、客観的) な情報より、鮮明度の高い (具体的な) 情報の方が影響が大きい
 - そもそも、統計的な情報の過少利用
 - 鮮明度の高い情報の方が記憶にも残りやすい
 - したがって、後の推論の過程で利用される確率も高い
 - (なお、記憶のプロセスとは別に、) 認知プロセス全体に影響が確認されている

Nisbett & Ross 1980, 43



「鮮明さ」の要素

- 感情的要因
 - 個人的に関心のあることについては、本人の期待・欲求・動機・価値観を直接的に刺激する
- 交通事故の事例
 - A氏の運転する車の前に、急に犬が飛び出した。
 - それをよけようとして、急ハンドルを切った。
 - 道路脇に駐車中のBさん車に衝突をした。

Nisbett & Ross 1980, 46



スキーマの考え方

- ・ 認知はランダムにおこるのではない
- ・ 構造 (structure) を持っている
- ・ 新しい情報は構造として認識される
- ・ 情報は構造として記憶される
- ・ 情報は構造として活性化される
- ・ これらのプロセスに、heuristicsやvividness バイアスは影響を及ぼす



特別なスキーマ (1)

- スクリプト (script)
 - ・ スキーマのうち、人の社会的な行為に関連するもの
- ◆ レストラン=スクリプト
 1. 入り口で案内を待って、指示によりテーブルへ
 2. メニューからオーダーする
 3. ナイフとフォークは外から使う
 4. 食事が終わると、レシートを持ってレジへ行く
- ◆ マクドナルド=スクリプト
- ◆ 高級フレンチ=スクリプト
- ◆ マンハッタンのレストラン=スクリプト



特別なスキーマ (2)

- 登場人物スキーマ (personae)、ステレオタイプ
- ・ スキーマのうち、人の性格・性格と行動の関連づけについてのもの
 - 職業と性格
 - 外観と性格
- ・ 体型と性格の場合
- ・ 「中国文学者」の場合
- ・ 大学別のスクールカラー=イメージの場合



スキーマとバイアスの関係

- ・ ところが、スキーマ上のすべての情報が常に「活性化」されているわけではない。
- ・ 外的刺激によって部分的に活性化される。
- ・ その際にも、
 - Availability Heuristics
 - Representativeness Heuristics
 - Vividness biasが、影響を及ぼす。